



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1995・96年度国際ロータリー・テーマ 国際ロータリー会長 ハーバート・グラハム・ブラウン



**Act with Integrity
Serve with Love
Work for peace**

〈本日のプログラム〉 ロータリー雑誌月間

第 406 回 平成 8年 4月 12日(金)

1. 点 鐘
2. ロータリーソング
「それでこそロータリー」
3. 食 事
4. 会 長 の 時 間
5. 幹 事 報 告
6. 各 委 員 会 報 告
7. 会 員 卓 話 林 厚 雄 君
8. 点 鐘

会 長 藤 堂 孝 一
副会長 斎 藤 芳 夫
幹 事 福 井 輝 文
会 計 中 武 靖 雄
会 議 委 員 長 垂 水 敏 雄

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)
 例会場 ホテル神宮寺 ☎0985-73-0015
 事務局 宮崎郡佐土原町大字下田島20614-9
 佐土原町建築業協会 内
 ☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170

第405回例会記録

(1996. 4. 5)

☆会長の時間

藤堂孝一君

皆さん今日は、本日は第405回例会です。前回の観桜会には多数のご出席をいただき、誠に有り難うございました。

雨のため夜桜を見ることはできませんでしたが、古月禪師（おかり）に所縁の大光寺での懇親会は盛り上がり、楽しい一宵でした。

大変お世話になりました正岡会員及びクラブ親睦委員会の皆さんに、心からお礼を申し上げます。

高齢化社会への対策として、『バリア・フリー（Barrier-free）住宅』建設に対する住宅金融公庫の融資金利が、本年10月から引き下げられることになりました。

バリア・フリーとは、「障害がない」という意味ですから、『バリア・フリー住宅』は、「高齢者が安全に、快適に生活できるように設計された住宅」ということです。例えば、床面の段差を小さくして、つまづいて転倒するのを防ぐように配慮することなどが挙げられます。

4月7日（月）に山脇医院を拝借して、ロータリー財団親善奨学生を志望している宇都宮さんの面接を、山脇会員と共にを行います。その結果については次週の例会で報告いたします。

4月14日（日）に高鍋町中央公民館で、高鍋RC創立20周年記念式典が挙

行されますが、全員登録してありますので、万障繰り合わせてご参加くださいますようお願い申し上げます。

☆幹事報告

福井輝文君

1. 例会変更通知

*宮崎中央RC 4月18日18:00

ホテル神田橋

創立10周年記念式典

*宮崎南RC 4月22日12:30

宮崎国際大学（鶴岡講）

*宮崎北RC 4月24日12:30

大淀川学習館

*小林RC 4月1日よりクラブ事

務所を下記に移転

小林市大字細野391番地1

株式会社坂下組内

2. 藤堂会長からお願いがありました、高鍋RC創立20周年記念式典への参加については、高鍋町中央公民館に午前10時までに集合していただくようお願いいたします。

☆出席報告

委員長 恒吉正志君

会 員 数	32名
H C 出席者数	25名
欠 席 者 数	7名
出 席 率	78.1%
メイクアップ者数	4名
修正出席率	90.6%
欠 席 者 名	赤木・大野・伊東 <small>（兼）</small>

本日のビジター

西都RC 尾崎公男君
” 宇治野 稔君

☆会員卓話

土屋光弘君

私の地方公務員勤務歴は、出先機関が20年、本庁が20年です。出先機関では殆ど道路を担当しましたが、本庁では河川を主に担当しました。

出先機関における私たちの技術レベルは、県内レベルを超えることはできませんでした。全国レベルに達するためには、どうしても本庁勤務の経験が必要でした。

本庁に入ると、建設省とのヒヤリングの際に、いろいろと技術上の論議をしなければなりませんので、全国レベルの技術を習得せざるを得なくなるからです。

本日は、春の全国交通安全運動が明日から展開される折りでもありますので、私の20年間の道路行政に携わった経験を基にして、道路についての話をさせていただきますと思います。

一般的には、人や車両が通行する所定の通路を道路と言っております。

機能的には、道路を通すことによって地域がどのように変わって行くかが大きなテーマになります。

佐土原町の東町を例に挙げますと、宅地はかなり整備されましたが、道路は旧態のままです。地域の開発に道路行政が対応されていないわけです。

土地利用計画が先ず確立され、交通網の整備が先行することが、地域開発の上で最重要課題となります。

広瀬の本町通りの道路の幅員は11mしかありません。これでは自動車を通すだけの機能しかなく、人が通行するのも不十分な状態です。また、旧佐土原本町の場合は、道路幅員16mですが、自動車は駐車ができず、歩行者や自転車の通行もゆとりが十分はありません。

町を活性化するためには、やはり22m程度の道路が必要と考えられます。

道路の機能として、空間（地上・地下）利用があります。宮崎市橋通りの幅員は40m位ですが、大火時の防火帯としての役割を持っています。道路の地下利用としては、最近の都市では、メインストリートの電線を殆ど地下埋設しています。

道路の分類では、1級国道（道路番号が1桁～2桁で、建設省直接管理）と2級国道（道路番号が3桁で、県市町村委託管理）がありましたが、現在は国道、県道、市町村道に分類されています。

次に交通渋滞（昭和36年警察庁用語）については配布資料を参考にしてください。

道路の交差は、直線と直線、直線と曲線などがあります。交通安全の観点からは、直線交差型が理想ですが、地形上、直線から曲線に入る場合は、緩和曲線を中間に設けています。カーブは長い方が運転が楽なようです。

高速道路は、最高速度120km/hで設計されていますが最近では140km/hで設計されているところもあります。

（以後は配布資料を御覧ください）

☆親睦委員会より 委員長 郡司 武 俊 君

4月セレモニー 今月誕生日、結婚記念日をお迎えになる次の方に、藤堂会長より記念品をお贈りして、会員一同、心から祝福申し上げます。

[誕生日祝い] 井下会員ご令室 郡司武俊君 垂水敏雄君

[結婚記念日祝い] 中武靖雄君 宮原建樹君 土屋光弘君 伊東俊春君

ロータリー・ボランティアが 阪神大震災の被災留学生 のために住宅を建設

1995年、日本の神戸地方を襲った大震災でも失われなかったのは、人々のボランティア精神です。3カ月間という電撃的速さで、約400人のボランティアは被災者を収容する住宅2棟を建設しました。

「ロータリー・フレンドシップ・ハウス」および「子供のためのロータリー・リハビリ・センター」と呼ぶこれらの新しい建物は、住む場所を失ったり、手持ち資金が少ない留学生、また親を亡くした孤児など、立ち直るのが困難な被災者のために建てられたものです。

プロジェクトは、被災したRI第2680地区のメンバーが、日本および世界中から寄せられた義援金を使って計画し、ロータリアン、ローターアクター、インターアクターのチームが7月から9月まで、天候に関係なく、作業に取り組みました。

建設の指揮をとったのは、プロジェクト委員長の今井鎮雄RI理事とロータリー会員が社長を務めるスウェーデンの住宅会社と、神戸西ロータリー・クラブの会員です。

「留学生にとって下宿費は大きな負担です」と今井理事は語ります。「このプロジェクトは、国境を超えて他人に援助の手を差し述べるというロータリーの理念を具体化するものです」

「ロータリー・フレンドシップ・ハウス」は、木造2階建てで、個人部屋と2人部屋からなり、18人の学生を収容できます。入居者は、神戸地域の大学に通学する留学生が提出した申請書の中からロータリアンが選びました。

「子供のためのロータリー・リハビリ・センター」の受け入れ児童には、ロータリアンと福祉関係者により、震災で親を亡くした孤児とその他の子供たち約50人が選ばれました。センターは2年間をメドとして子供たちに住まいと世話を提供することになっています。